

企業OBに助け合いによる生活支援活動への参加をうながすにはどうすればよいか

提言

大阪に結集した3,000名、
参加したそれぞれの団体が
「地域包括ケアシステム」の実行に向けて
関係する企業や企業OBにアプローチし、
高齢者の日常生活支援活動を
一大運動として展開しよう。

登壇者

【進行役】	神野 毅氏	(特非) ニッポン・アクティブライフ・クラブ会長
	奥山 俊一氏	(認定特非) プラチナ・ギルドの会理事長
	齊藤 秀樹氏	(公財) 全国老人クラブ連合会常務理事
	中村 順子氏	(認定特非) コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
	和多 幸司朗氏	(公社) 門真市シルバー人材センター常務理事・事務局長

■ 寄せられた声から

- 今後の世のすべてのKeyになる分野だと思います。
- 中村順子さんの話は、説得力があり共感できる話がぎっしり。
- 現役時代から地域活動への参加を啓蒙するのは同感です。ただ、企業の現状から言えばかなり困難です。国の政策に沿って大企業は進むのでしょうか。中小企業まではどうでしょうか。

議事要旨 神野 毅氏

テーマの趣旨は、企業OBを助け合い活動に誘導するために、生活支援コーディネーターや協議体を含め、今回出席している諸団体、参加者がいかに企業、企業OBに働きかけたらよいかというものであり、それを議論・検討するパネルにしたい。パネリスト4氏から、それぞれの団体の活動が、地域の生活支援の助け合いにどう展開していくかを議論も含め発言があった。

1. 奥山俊一氏

企業内のシニアに対し「50歳になれば社会貢献を」などの啓発研修を開催し、会社生活で培った知恵を生かし、現役時代からボランティア活動で社会貢献を体験し、会社人生を終えた後社会デビューを果たすことが重要。今後企業に対し積極的に研修を進めたい。

2. 和多幸司朗氏

「仕事」というキーワードで企業OBが現役時代の経験を活かし「家事生活支援サービス」を行っており、まさしく「総合事業」の活動であり、今後その推進のため社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治会、老人クラブ、NPOと連携を取り、企業OBに働きかけていきたい。

3. 中村順子氏

生活支援・介護予防サポーター研修を実施しているが、企業OBが生活支援をする人材になるには企業の退職前研修に地域活動の情報を紹介すること、自ら地域社会のその種の研修に参加することによって「意識の壁」を乗

り越えることが重要。

また、「WANTS」「NEEDS」「CAN」の組み合わせで活動の種「SEEDS」を発見する。

4. 神野毅

当組織は企業OB、労働組合OBを中心にスタートし発展してきた。過去、企業に退職前研修をテーマとして「地域社会に対する貢献活動」「退職後の人生設計」を提唱したが反応は無かった。しかし、今こそアプローチする時期に来ている。現在積極的に活動している会員が企業の後輩等に参加を促す。「日常生活支援研修」を実施することで、地域社会への貢献活動を積極的に展開する。

5. 齊藤秀樹氏

当初は「生きがいと健康づくり」が中心、現在は「健康・友愛・奉仕」の三大運動を展開し、「友愛活動」として、仲間の病気見舞いや施設慰問からスタートし、安否確認、日常の生活支援活動に発展している。今後、地域包括ケアシステムとの連携、行政・協議体・関係団体とどう一体となって取り組むかが課題。

パネリストの発言と議論の中で「企業OB」はもちろん企業に対しても積極的に働きかけることが重要であり、提言としては「大阪に結集した3,000名、参加したそれぞれの団体が「地域包括ケアシステム」の実行に向けて関係する企業や企業OBにアプローチし、高齢者の日常生活支援活動を一大運動として展開しよう」になった。

アンケートの結果 参加者概数：220名 回答者数：148名

